

平成 2 1 年度 実施事業	事務事業名	ヘルスパイオニアタウン事業（脳ドック助成事業）
-------------------	--------------	-------------------------

区分	番号	名 称
章	1	やさしさと共生するまち
節	2	市民一人ひとりが生涯を通じて健康に暮らせるまちをつくる
施策	2	保健予防活動の充実
小分類	1	成人及び老人保健の充実
主要な施策	1	各種検診の充実と受診率の向上
事務事業番号	005	事務事業コード 12211005 事業開始年度 平成 1 4 年度 事業終了年度 平成 - 年度

会計種別	国民健康保険特別会計	予算書上の事務事業名	脳ドック助成金
------	------------	------------	---------

部 名	保健福祉部	グループ名	国保・医療給付 G
-----	-------	-------	-----------

統合前または名称変更前の事業名	
-----------------	--

事務事業の目的と成果

対象	<p style="background-color: #ffffcc;">（何を対象にまたは誰を対象にした事務事業なのかを具体的に記載ください）</p> 20歳以上の登別市国民健康保険被保険者（原則として、保険税滞納世帯を除く）
手段（事業の内容・活動）	<p style="background-color: #ffffcc;">（目指す姿を実現するためにどのような手法で行うのか、事業の内容を具体的に記載ください）</p> 脳ドックを受診した被保険者に対し、受診料の一部を助成する。 ・頭部MRI、頸部MRA実施の医療機関 ～ 市補助金：17,000円又は11,750円で本人自己負担額：4,000円 ・脳CTスキャン実施の医療機関 ～ 市補助金：8,500円で本人自己負担額：2,000円 検診料金の助成は、2年に1回としていく。
目指す姿（成果）	<p style="background-color: #ffffcc;">（事務事業を実施することでどのような状態にしたいのか具体的に記載ください）</p> 脳ドックを受診することにより、脳血管疾患などを早期に発見し、早期治療につなげる。
根拠法令等	<p style="background-color: #ffffcc;">（事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称をすべて記載ください）</p>

指標の推移

区 分		単位	区分	21年度 実績	22年度 目標	23年度 目標	24年度 目標	25年度 目標
成果 指標	脳疾患(循環器系の疾患)に係る1人当たり医療費を全道平均以下にする。(5月レプトより：上段が道・下段が当市) 疾病分類20分類の循環器系の疾患より	円	目標値	4,324	4,324	4,324	4,324	4,324
			実績値	5,009				
			目標値					
			実績値					

事業費の推移

区 分			単位	21年度 決算	22年度 当初予算	23年度 見込	24年度 見込	25年度 見込	23～25年度 合計
事業 の 財 源 内 訳	国庫支出金	名称	千円						0
	道支出金	名称	千円						0
	地方債	名称	千円						0
	その他	名称 国民健康保険税	千円	4,634	5,163	7,905	7,905	7,905	23,715
	一般財源	名称	千円						0
合 計				4,634	5,163	7,905	7,905	7,905	23,715
(参考) 上記事業を実施する上で 必要となる人件費			職 員	千円	793	346			
			嘱 託 員	千円	0	0			
			臨時職員	千円	0	102			
			合 計		793	448			

担当グループによる事務事業評価の内容

1. 事務事業の妥当性について			
今後も市が事業 主体として実施 していくことは 妥当ですか？	→	妥当である 妥当ではない	→ 妥当である理 由、妥当ではな い理由は何です か？ 脳ドックについては、受診しやすい環境づく りが重要であることから、市が検診料金を助成 することは妥当である
2. 事務事業の成果について			
成果はあがって いますか？	→	成果があがっている どちらかといえばあ がっている 成果があがらない	→ 成果があがって いる理由、あが らない理由はな んですか？ 脳ドックにより、脳の疾患を早期発見・早期 治療につなげることができる。
3. 事務事業の成果向上について			
成果を向上させ ることはできま すか？	→	大きく向上させるこ とができる 少し向上させるこ とができる 向上させることはで きない	→ どのようにして 向上させます か？ 向上させること ができない理由 は何ですか？ 脳ドックのMRI・MRA検査については、委託先 の医療機関の受診者枠に制限があるため、過去 の受診状況などを精査して対象者を選定してい く必要があり、一方的に受診者数を増加させて いくことは不可能である。
4. 事務事業の経済性・効率性について			
成果を落とさず にコスト（予算 や人工、所要時 間）を削減する ことはできます か？	→	削減できる 削減できない	→ どのような方法 でコストを削減 しますか？ 削減できない理 由は何んです か？ これ以上経費を削減することは、受診者の自 己負担額をあげることになり、受診率の低下に つながるため、削減は難しい。

担当グループによる評価

維 持	左記の評価 を選択した 具体的な理 由（根拠）	脳ドックは、疾病の早期発見・早期治療につながるため、事業を維持していく。
-----	----------------------------------	--------------------------------------

総合的な評価（当該事務事業の方向性）

維 持	備考
-----	----

評価の種類

- 拡大（事務事業の規模や経費を拡大し、これまで以上に強力に推進する事務事業）
- 維持（現状の対象や目指す姿、手段などに変更が無く、今後も実施する事務事業）
- 改善（現状の手段や経費などを見直し、成果指標の向上等を行う必要がある事務事業）
- 休止（暫定的に休止する事務事業）
- 終了（当初から決められていた事業期間が終了または成果品等が完成し、目的を果たした事務事業）
- 廃止（当該事務事業の予定を変更し、廃止する事務事業）